

① 汽車
② 行
③ 校歌

④ 白馬
⑤ 用心

〔要心〕も可

2 1 (十字) 家 地
(十六字) 保 園

〔完答〕

〔完答〕

2 せ
3 人工

4 I 砂漠化

II 五字 気候の変化
四字 人間活動

〔完答〕

5 I 1
II 2
III 2

3 1 たからの石
2 A ア
B エ
C イ

3 こもりうたをうたい

4 ウ
5 エ
6 ひかり
7 2

配点

① 各2点×5＝10点

②～③ 各5点×18＝90点

<計>100点

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「汽」の右側を「気」としてしまわないようにしよう。②「行」には「おこな(う)」の他に「い(く)」「ゆ(く)」という訓読みもある。③「歌」の右側の「欠(あくび・けんづくり)」を「欠(ふん・ぼくによう)」としてしまわないようにしよう。覚えるときから細かい部分までしっかりと確認すること。④「馬」の書き順に気をつけよう。一画目は横ぼうではなくたてぼうである。⑤「用」の三・五画目の筆順は「ヨコ→ヨコ→タテ」である。

2

1 本文中では農作物をつくるのに適していない場所の例がいくつかあげられていた。あわてずに数えて、指定された字数に合うものをさがそう。答え以外のものでは「人が住むための場所」「開発の進んだ都市部」「工業が発展した地域」「山や起伏(高低)のある地形」があったが、いずれも字数に合わない。

2 「やせた」とは「体重が軽い」や「体が細い」といった意味だけではなく、「栄養がない」といった意味もある。「やせた土地」の反対は「肥えた土地」である。

3 砂漠はもと「自然」につくり出されていたが、近年は「人間活動」つまり人の力によって緑のあった場所が植物が育ちにくい場所になる現象(砂漠化)が起こっているため、「人の力である現象を起こす」という意味の「人工」が答えとなる。

4 I 線④の直後の一文を見ると、「これを砂漠化といいます」とあり、「これ」という指示語は——線④の「問題」を指している、答えは「砂漠化」とであるとわかる。

II 線④の一行うしろに「砂漠化の原因には」とあるのに気づけば、答えはすぐに見つけられただろう。

5 I 本文二行目に「国土が小さければ、食料をつくるために使える土地(＝農地)も小さくなる」と書いてあるので、正しい。

II 本文四行目に「農地の代わりに工場などをつくるために、土地が使われます」とあるが、これは「起伏のある地形」ではなく「工業が発展した地域」でのことなので、正しくない。

III 本文うしろから二・三行目に「養分や水分を含んだ土が失われ、植物が育ちにくい土地に変わる」とあるが、これは「土が失われる→植物が育ちにくい土地になる」という関係であり、問いのほうでは因果関係が反対になっているので、正しくない。

3

1 ①の直後に「あの石は」とあるので、答えはなにかしらの「石」であると見当がつくだろう。どんな石か、なんの石かと考えて文章を読み進めると、じいさんぎつねが「この石には、もう力がのこっていないんだ」と言っていて、さらに「いま、たからの石をたすけられるのは、おまえしかない」とも言っているため、「たからの石」が答えになるとわかる。

2 A 「さちを(A)石のほうへおしやりました」とあるので、どんなふうにおしやったのかをあらわすア「ぐいと」か、イ「そつと」がはいりそうだとわかる。二つ以上はいりそうな場合は無理に決めてしまわずいったんおいておき、ほかの空らんを考えるようにしよう。

B 「さちは、(B)石をみつめまいた」とあるので、どんなふうにみつめたのかをあらわすエ「じいっと」がはいる。

C 「あかちゃんの手をなでるように、(C)」とあるので、やさしくなでているイメージのイ「そつと」がはいる。すると、(A)にはア「ぐいと」がはいると決まる。

3 ②の直前に「さちは、ぐりかえし」とあるので、ここより前の部分でさちが「たからの石」に対して何かしているはずだと見当がつき、あとに「七ど目をうたいたした」とあるので、②には「こもりうたをうたいたい」がはいるのではないかと見当をつけられるだろう。また、それを「④つづけました」のところにいれても意味が通じるので、「こもりうたをうたいたい」が答えとなる。

4 ③の直後にはさちが苦しんでいる様子がえがかれているのでウ「いきぐるしく」が適当である。

5 線⑤の前にじいさんぎつねは「たいへんなことになってしまった。こんなちっちゃなむすめ(さち)に、むりなことをさせてしまった。どうしたらいいんだ。かわいそうに、どうしたらいいんだ」とあるので、じいさんぎつねが目目のさちの様子を見てどうすればいいのかわからなくなり、動揺していることが読み取れる。

6 本文の流れとしては、【たからの石が力をうしなつたことでひかりがにげだし、むらさきのひかり一つだけのこっている】↓【さちがたからの石にむかって、こもりうたをうたった】↓【たからの石から、なないろの⑥があふれた】であった。さちのおかげでたからの石が力をとりもどし、うしなっていたものをとりもどすことができたと考えられるので、⑥には「ひかり」がはいるとわかる。直前にある「なないろの」ということばもヒントになるだろう。

7 ⑦の文中に「そのまま、ぼたり、とたおれて」とあり、これはいる部分の前にはたおれる原因が書かれているはずだと見当がつく。【2】の前に「のこっている力をすべてふりしぼって」とあり、また【2】のうしろに「じいさんぎつねは、あわててさちにかけよりました」ともあることから、たおれたさちにじいさんぎつねがかけよったと考えられるため、【2】にはいるとわかる。